

進路選択支援を通した「自分さがしの旅」

—中学生、高校生（10代）の自己決定

府立松原高校・松原市内中学校

1 松原高校（総合学科）としての進路選択支援

■ 多様な選択から学ぶ

松原高校は1974年に松原市民の地元高校育成運動の中で建設され、96年に大阪府初の総合学科をスタートさせて今年で10年になります。

総合学科は、3年間に生徒が受ける授業の約半数が選択授業であることを最大の特徴とし、同時に、多様な学習スタイルを取り入れる事によって生徒それぞれの個性や良さを発見する新たなシステムを備える学校です。

松原高校でも国際理解や地域福祉、情報表現などの5系列のもと、新たな「学び」の創造を目指してきました。「ハングル」「フランス語」などの語学や「コミュニティ基礎」「カウンセリング講座」「看護講座」「子どもと絵本」「発達と保育」など、160もの選択授業を開講しています。

それぞれの生徒が進路や興味に応じて選択するので、2、3年生にもなれば全く同じ時間割の友達を探すのは容易ではないくらい選ぶ授業は一人ひとり違います。

今年の春に卒業したある生徒の場合、1年で選択した工芸Ⅰの授業をきっかけにデザインに関心を抱くようになりました。普通科の場合、そのまま2年生で工芸Ⅱを選択して終わりですが、総合学科では1年の秋に2、3年の授業を選ぶことができます。

彼女は、2、3年の選択授業に工芸Ⅱ、Ⅲはもちろん、「生活デザイン」「モダンクラフト」「デ

ザインワーク」「製図」などのデザインに関わる講座を選び、自分の進路を発見したのです。本校の美術科の教員をはじめ、工芸系の授業にいられている非常勤の先生方の指導を受け、その力を見出してもらったのです。ここまでの選択肢を与えられていなければ、デザインの勉強という道を選ぶことはできなかったでしょう。

■ 体験学習から学ぶ

総合学科のスタートは、環境教育のリーダー、マザーアース・エデュケーションの協力のもとに行ったエンカウンターグループを活用した野外でのホームルーム合宿です。「FAITH」（＝信頼）というコミュニケーションと人間関係づくりを目指した合言葉と同時に、この合宿は「体験学習法を学ぶ」という性格を持っています。

合宿のプログラムには「イニシアティブ・ゲーム」と呼ばれる活動があり、13人のグループが課題達成のゲームに協同して取り組みます。例えば「ス



ホームルーム合宿

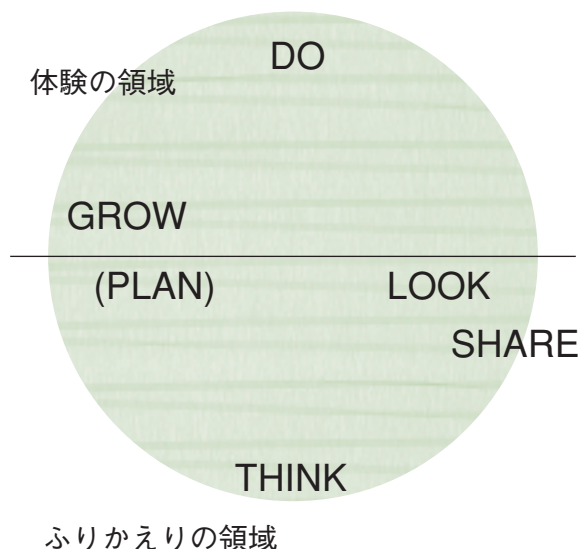
パイダーウェブ」と名づけられたゲームでは、蜘蛛の巣状に張られた紐の間を互いの協力によって一人ひとりが通り抜けるという課題が与えられています。但し、誰かが紐に体を触れると最初からやり直しというルールがあります。

そこで生徒たちは一人ひとりの個性を考え体を持ち上げたりしながらトライします。簡単には通り抜けられない、かなり難度の高いゲームです。

いくつかの方法を試みて「もう無理や」「絶対でけへん」などの言葉が出るようになります。その度に丸くなって座り、試みた方法(DO)のどこに問題があったか出し合う(LOOK)のです。

一つのアクティビティ(行動)でも見る位置によって感じ方が違うのです。それぞれの感じ方を出し合い(SHARE)、誰かから提案が出されまたトライする。こうして何故途中までうまくいかなかったか、という問題(課題)の発見と、誰のどのような行動や提案で成功に結びついたかという解決策を明らかにする。その過程で、自分の感じ方、考え方だけにとらわれない見方や方法を体得します。

体験学習の循環課程図



ホームルーム合宿

■ 社会との接点で学ぶ

こうして学んだ「体験学習法」は実際の学びと進路選択に生かされていきます。

1年次「産業社会と人間」(「産社」)は「体験学習の学び」のトレーニングと実践の場であると言えます。入学当初にまずグループワーク実習などを行った後、6月に「社会体験」が行われます。「国際」「福祉」「環境」「震災(街づくり)」「HIV・エイズ」などの活動をしているボランティア団体やNGOを訪問し、半日から1日の活動をさせてもらい、そこで活動している人々の思いや体験を聴くのですが、生徒達は大きな刺激を受けて帰ってきます。この場合、行き先や役割を常に選択させながら活動を行います。

「産社」では、夏休みに「サマーワーク」として、「社会体験」を参考に自ら活動先を探して何かの活動をする事を課しています。「社会体験」で訪問した施設を再び訪れる生徒や自分で申し込んで保育所や福祉施設にボランティアに行ったり、平和学習やエイズの啓発活動、岡山のハンセン病療養施設を訪問する生徒もいます。これらは自分で選ぶ活動であり、この経験が生徒の生き方に少なからぬ影響を与えます。

このように松原高校では「自分で課題を見つけ、自ら学び、考える力」を育むため、総合学科の特

長を生かして「選択させ」「体験的に学ぶ」ことを位置付けています。

進路選択の支援は、進路別ガイダンスの実施という部分的な取り組みだけではなく、「自ら選び取る力」をトータルに育てることにあると考えています。

2 地域のネットワークを生かした進路選択支援

松原高校では、かつて松原地区の高校友の会への支援など地域連携を行ってきました。また、

地元高校として松原第三中学校をはじめとする松原市内の中学校とも生徒の育成を巡って連携を行ってきました。その結果、地域の高校生が学校の人権学習に関わる、あるいは教科の学習会を通して進路を実現するなどの成果も挙げてきました。

それらを支えてきた「地対財特法」期限切れの後、地域の生徒たちの学校生活のより良い支援と進路保障を行なうために進路選択支援事業を活用した取り組みが松原市では2年前から始まっ

進路選択支援事業松原連絡会とは

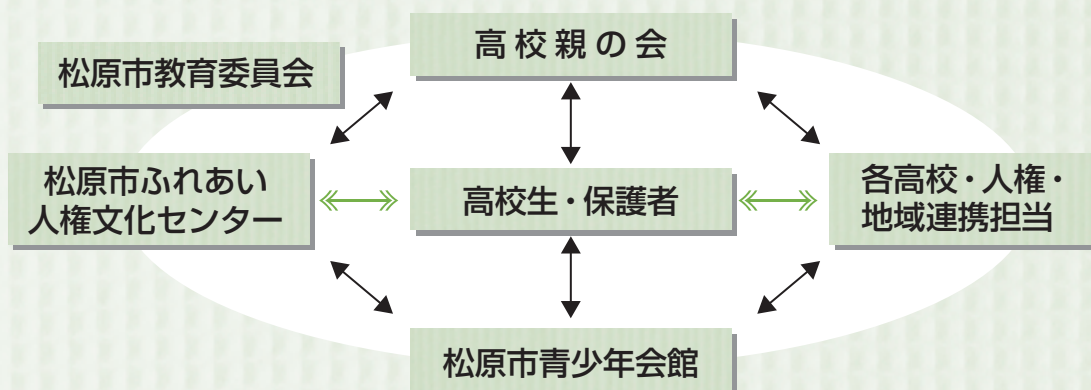
目的

進路選択支援事業に登録した地域の生徒たちの進路実現を図るため、学校生活のより良い支援、一般施策としての奨学金制度の情報提供や有効活用を図るなどを行う。

組織

高校部会、大学部会をおく。

進路選択支援事業松原連絡会(大学部会の例)



構成団体(大学部会)

松原市教育委員会、松原市ふれあい人権文化センター、松原市青少年会館
高校生親の会、地域関係者(松原市人権地域協議会など)
松原市立松原第三中学校
松原高校をはじめ、登録生徒が在籍する学校



選択授業(手話講座)

ています。それが進路選択支援事業松原連絡会です。

松原高校としては、進路選択支援事業松原連絡会を通じて、松原市教育委員会、松原市ふれあい人権文化センター、青少年会館、中学校や他高校と協力して、地域の高校生の進路支援コーディネーターとして学校と地域の連携支援を図ろうとしています。

進路選択支援松原連絡会では、常に具体的な生徒の状況を出し合うよう努めています。保護者懇談会が年2回、進路選択支援松原連絡会と高校親の会の企画として行われ、高校側と保護者、会館、センターで学年に分かれ話し合いを行っています。特に1年生では、高校生活で気づいたことや注意点などについて活発な話し合いとなっています。

また、場合に応じたケース会議、情報交換を欠かさず、とりわけ年度後半には中退防止のため連絡協議を密にすることなどが新たに提案されています。

同時に、昨年度から日本育英会が日本学生支援機構に変わり、大学予約奨学金についての登録生徒保護者への変更点の説明が大切となっています。

具体的には

日本学生支援機構(大学・短大・専門学校) 予約奨学金について

- ① 春に予約の申し込みをし、秋までに採用かどうか決まります。(無利子は7月)
- ② 学校に合格したら来年の4月から支給されます。(進学先が決まらなると無効)
- ③ 返還は、大学や専門学校を卒業してからです。
- ④ 無利子(無利息)と有利子(利息がある)の2種類があります。どちらも家計の収入で判断されますが、無利子には成績条件があります。

などについて学校と連携して、丁寧な説明を心がけるようにしています。

生徒一人ひとりの姿を地域、学校、さまざまな眼で見つめながら、中学、高校そしてその後の進路の実現へ向けた支援のネットワークが何よりも求められています。

